

スマートフォンと PC のテストの動機づけに関する比較分析

柴 貴範

平成 25 年度入学生から、高等学校の新学習指導要領が年次進行で実施されている。このため、大学初年次に開講される情報基礎科目は、共通教科「情報」の新しい科目を履修した学生に対応するような授業改善が求められている。加えて、大学では、学生の授業時間外学習の促進や知識定着を目指した授業改善も求められている。

先行研究ではスマートフォンとタブレット端末でのテスト実施による比較分析は行われてきた。これは、近年急速に普及率が高まってきたスマートフォンとタブレット端末に着目したからだと考えられる。しかし、現状としてタブレット端末を所持する人より PC を所持している人のほうが多い。そこで、本研究はスマートフォンと PC に着目して、スマートフォンと PC でテスト実施前後でアンケート調査を行い、テストの動機づけに差が出るかどうか明らかにした。また、スマートフォン、PC の利用時間とテストの動機づけの関係を明らかにすることも目的とした。

調査方法は学生に PC とスマートフォン、それぞれでテストを実施し、テスト実施前後でアンケート調査を行った。調査対象はスマートフォンを所持している筑波大生とした。また、テストは英単語を 15 問、多肢選択で作成した。調査項目では、「テスト意欲」、「テスト負荷」、「自己効力感」、「デバイスの評価」の 4 つの尺度で質問紙を構成した。それぞれの質問項目で平均値において比較分析を行った。

事前アンケートでスマートフォンと PC で対応する質問項目の平均値を比較した結果、テストを受ける前までは PC のほうがスマートフォンより、テストを受けるデバイスとして評価が高かった。しかし、事後アンケートではスマートフォンのほうが PC より、テストを受けるデバイスとして評価が高くなった。つまり、テストを実施するとスマートフォンがテストを実施するツールとして便利であると感じ、意欲的、かつ、テストを解くのに負担ではないということが分かった。また、スマートフォン、PC のそれぞれの利用時間とテストの動機づけの関係については、利用時間を細分化して比較分析を行うための十分な調査人数を得ることができなかったため、本研究では明らかにすることができなかった。

今後はスマートフォンと PC、それぞれの特徴を活かしたテスト形式を検討したうえで比較分析を行う必要もあるだろう。

(指導教員 大澤文人)